

「ChatGPT へのプロンプトの自動送信.xlsm」の使い方と注意点

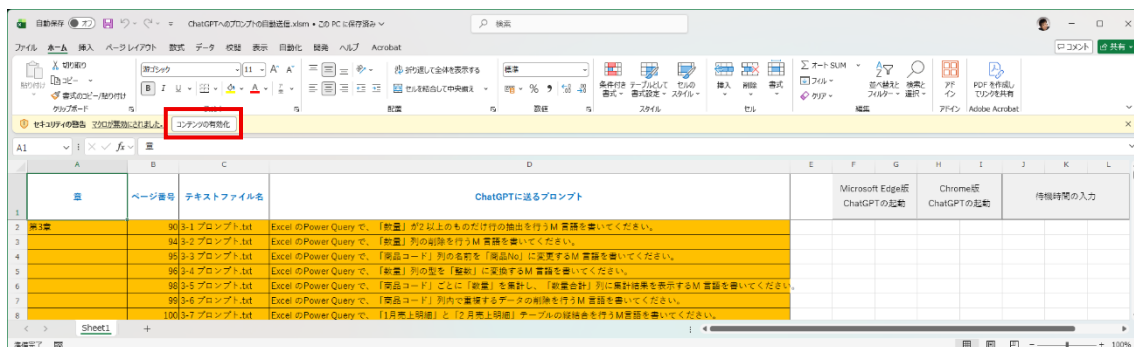
■「ChatGPT へのプロンプトの自動送信」とは？

「ChatGPT へのプロンプトの自動送信」とは、本書内で紹介されており、「SampleFile」フォルダの「プロンプト」フォルダ内でテキストファイルで提供しているプロンプトを Excel のワークシートに用意して、目的のプロンプトを瞬時に ChatGPT へ送信するツールです。

■「ChatGPT へのプロンプトの自動送信.xlsm」の使い方

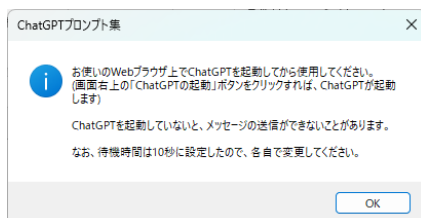
●使い方 1 起動方法

「ChatGPT へのプロンプトの自動送信.xlsm」を使用するときには、「ChatGPT へのプロンプトの自動送信.xlsm」を開いて、[コンテンツの有効化] ボタンを押してマクロを有効化してください。

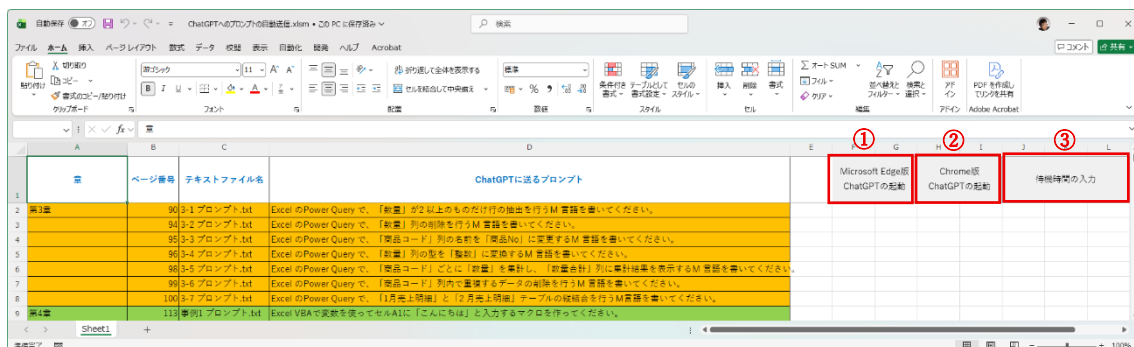


●使い方 2 使用するブラウザの選択

「ChatGPT へのプロンプトの自動送信.xlsm」を起動すると次図のメッセージボックスが表示されます。



このメッセージボックスを閉じたら、お使いのブラウザに応じて次の①か②のボタンでブラウザと ChatGPT を起動してください。

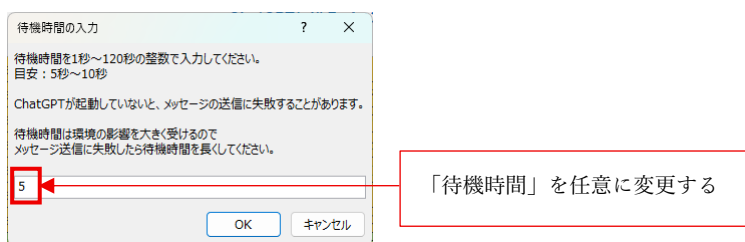


※対応しているブラウザは Microsoft Edge と Chrome です。

●使い方 3 待機時間の設定

「待機時間」とは、D 列のプロンプトを ChatGPT が受信するまでの時間で、ブックを開いたときには自動的に「10 秒」に設定されます。

この「待機時間」を変更したいときには、前図の③の「待機時間の入力」ボタンをクリックして、「待機時間の入力」ダイアログボックスで変更してください。



「待機時間」は、お使いの PC の環境や通信速度、また ChatGPT のサーバーの混み具合などに左右されますので、一概に「何秒」とは言えません。

ちなみに、筆者の環境では「5 秒」の「待機時間」で十分ですので、1つの目安にしてください。

●使い方 4 あとは D 列のセルをダブルクリックか右クリックするだけ！

ブラウザが Microsoft Edge の場合

→ D 列の任意のセルを **ダブルクリック**

ブラウザが Chrome の場合

→ D 列の任意のセルを **右クリック**

これだけで、ChatGPT にプロンプトが送信されて、ChatGPT が回答を作成します。

■ ChatGPT が作成したマクロでエラーが出た場合

稀にですが、ChatGPT にプロンプトを送って ChatGPT が作成したマクロを実行するとエラーが出る場合があります。

その原因は一概には言えませんが、主に次の 2 つに大別されます。

① ChatGPT は進化し続けているが、その過程で一時的に精度が落ち、そのタイミングでプロンプトを送ったために期待していたマクロが作成されないケース

② ChatGPT は毎回それまでの対話の履歴を追って動作するので（ChatGPT はユーザーの「クセ」まで学ぶ）、たとえば「変数名は日本語にして」というような ChatGPT の使い方をしていると、ChatGPT が変数名を間違えてマクロを作ってしまうといったケース

いずれにしても、仮に ChatGPT が作成したマクロで「列順変更が参照できません」というエラーが出た場合であれば、

「列順変更が参照できません」というエラーが出ました。原因を提示し、エラーが出ないようにもう一度マクロ全文を作り直してください。

と ChatGPT にプロンプトを送れば、ほぼ確実に ChatGPT は正しいマクロに作り変えます。

そして、このように ChatGPT にミスを指摘すれば、それ以降は ChatGPT は基本的に同じミスはしなくなります。

■ 「プロンプトの自動送信」の免責事項、その他

● Web 上の ChatGPT の URL が変更になったら、「ChatGPT へのプロンプトの自動送信」は動作しなくなる可能性があります。

● 「ChatGPT へのプロンプトの自動送信」は本書の「付録」という位置づけですので、いかなるご質問にも対応できないこと、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

● 「ChatGPT へのプロンプトの自動送信」を使用して発生したいかなる事象にも、筆者および SB クリエイティブ株式会社は免責されるものとします。

● 「ChatGPT へのプロンプトの自動送信」がユーザーのコードの改変で動作しなくなるリスクを考慮し、VBA マクロは閲覧不可になっている点ご了承ください。